

俱利伽羅劍 大錫杖 石摺り不動尊



俱利伽羅劍（銅製）



大錫杖



石摺り不動尊

俱利伽羅劍（くりからけん）

不動明王が右手に持つ、竜が巻きつき炎に包まれた剣。貪瞋痴の三毒を破る智慧の利剣である。この剣が単独で磐石に突き立った姿は**不動明王の化身**とされ、「**俱利伽羅明王**」「**俱利伽羅不動**」「**俱利伽羅竜王**」などと呼ばれて礼拝の対象となる。不動明王の化身としての竜王の形像は、岩上で火炎に包まれた黒竜が剣に巻きついて、それをのもうとするさまに表される。

金属製の「俱利伽羅劍」は大本堂前正面の案内所と鐘楼との間にあります。

「奉納 **平成二十年五月吉日**」(2008)のプレートがついた新しいものですが、石の台座には「**明治九丙子年九月吉日建之**」(1876年)と刻まれており、太平洋戦争時の金属類回収令で供出され台座のみであったが大本堂建立時に二代目の俱利伽羅劍が奉納された。

金属類回収令 1941年(昭和16年)に初めて制定され1945年(昭和20年)廃止された。

大錫杖（だいしゃくじょう）

錫杖は、読経する時に振り鳴らしたり、**巡礼や托鉢**の時に杖として用いたりする法具です。本来は、上部につけられた輪がぶつかりあう音によって、**毒虫や毒蛇を傷つけることなく追い払う道具**で、**お釈迦さまの考案**によるものといわれています。そのため、錫杖の音には、穢れをはらい、心を清める諸仏の神秘的な力があるとされ、**衆生済度**や所願成就を祈念する為用いられるようにもなりました。成田山の大錫杖は、元治元年(1864年)に**錫杖一心講**より奉納されたもので、高さが**4m**もあり、これを**持ち上げる事により御利益をいただくことができる**と言い伝えられています。現在は安全のため固定されておりますが。

大錫杖は三重塔正面に奉安されています。

錫杖は僧侶・修験者が持ち歩く杖で、頭部は塔婆形で数個の環がかけてあり振ったり地面を強く突いたりして鳴らす。

石摺り不動尊（いしずりふどうそん） 別名、撫で不動（石摺り不動）日本橋 伊勢屋六左衛門 奉納 隠しステージ的な場所なので気付かない人も多いようですが、女坂を上りきった左手にある。**1827年**(文政10年)に造立の石摺り不動。石碑の中央にお不動さまと両童子が彫られています。昔は、これを拓本して御信徒に頒布した又掛け軸として家でお祀りしている御信徒もいた。中央の不動明王の部分が黒ずんでいるのは、お参りする人がお不動さまに直接接触して信仰を深めているからです。ここが別名、撫で不動と呼ばれる由縁ですね。

碑の不動明王像は、昔は拓本してご信徒に頒布されたことから石刷り不動の名がある。

中興第八世照胤上人（しょういん）	文政10年5月	開眼	『裏側』
中興第十世照阿上人（しょうあ）	天保12年1月	再開眼	『裏側』